

氏名	福 本 光 宏
学位(専攻分野)	博 士(医 学)
学位授与番号	博 乙 第 2470 号
学位授与の日付	平成 4 年 6 月 30 日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	インターフェロン並びにインターフェロン誘起剤に関する基礎的・臨床的研究 第1編 インターフェロン並びにインターフェロン誘起剤の好中球 Chemiluminescence に及ぼす影響 第2編 急性非リンパ性白血病寛解期における β -Carboxyethyl-germanium sesquioxide(Ge-132)の臨床効果
論文審査委員	教授 太田 善介 教授 辻 孝夫 教授 岡田 茂

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

【第1編】

インターフェロン (IFN) 並びにインターフェロン誘起剤の好中球機能に及ぼす影響を知ることを目的として、IFN- α 投与症例 (human lymphoblastoid interferon 3×10^6 unit/day連日筋注) 9例、Ge-132投与症例 (2250mg/day連日経口) 11例の好中球 Chemiluminescence (ChL) を薬剤投与前、投与後1週目、投与後1ヶ月目に測定した。ChLの測定項目は刺激前化学発光 (Base line)、刺激後最大化学発光 (Peak level)、刺激後最大発光到達時間 (Peak time) の3項目とした。またIFN- α 、Ge-132、OK-432の好中球に対する直接的作用を調べるためにin vitroにおいても好中球ChLを測定し以下の結果を得た。

1. IFN, Ge-132投与症例では投与後1週目Peak levelの著名な上昇を認めたが、投与後1ヶ月目にはほぼ投与前値まで低下していた。
2. in vitroの実験系においてIFNは濃度並びに時間依存性にPeak levelを上昇させたがGe-132, OK-432にはこの効果は認められなかった。

以上よりIFN, Ge-132が好中球機能をも賦活化しつつ生体防御機構に関与していることが示された。これは同時に悪性腫瘍並びに感染症の臨床管理における有益性を示すものと考えられた。

【第2編】

急性非リンパ性白血病（ANLL）に対するGe-132の効果をすることを目的とし、ANLL寛解期にGe-132を投与しその臨床効果を検討した。ANLL 22例をGe-132投与群と非投与群各11例に分け、Ge-132投与群ではGe-132, 9カプセル／日（2250mg／日）を連日経口にて投与し以下の結果を得た。

1. 生存期間, 寛解期間, 再寛解率は両群間で有意差を認めなかった。
2. Ge-132には強化療法後の骨髄回復過程に対する促進効果を認めなかった。
3. Ge-132投与群で肝障害の発生頻度, 程度ともに低い傾向が認められた。

本剤がすでに第1編で報告したごとく好中球機能を賦活化すると同時に肝機能障害に抑制的に作用することは、化学療法下における易感染性の改善, 肝障害の発現防止などを通じてANLLの臨床管理に有用性を示すものと考えられた。

論文審査の結果の要旨

本研究は、インターフェロン(IFN)並びにインターフェロン誘起剤の好中球機能に及ぼす影響を知ることがを目的として、IFN- α 投与症例, Ge-132投与症例の好中球Chemiluminescenceを測定したもので、IFN, Ge-132が好中球機能をも賦活化しつつ生体防御機構に参与していることを示した。

また急性非リンパ性白血病の寛解期にGe-132を投与しその臨床効果を検討したところ、好中球機能を賦活化することなどを明らかにした。これは新し業績であり、よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。